学校番号	3005

令和２年度　工業科（工学系）

教科	工業	科目	建築構造設計	単位数	２単位	年次	３年次 (選択)
使用教科書	建築構造設計（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

建築物は「生活の器」と言われ、その中には人の生命と財産があります。それらを守るためには、安全性はもちろん、居住性や施工性、経済性などが求められます。建築物は構造体としての骨組みと仕上げ材から成り立っています。骨組みを構成する部材にかかる力に対して、必要以上の強度を持たせると部材は重く、大きくなり、空間への干渉、コスト面からみてもデメリットしかありません。また、逆に、強度不足の場合は、崩壊などの事故につながり、安全性が確保できません。

建築構造設計では、安全な建築部材を設計するための必要最小限の力学に関する基礎的な知識や算定方法など、建築物を構成する要素の役割や材料の選定方法を総合的に学習しましょう。また、実際の設計で用いる数式の理解に努めることにより、基本的な数学力を養いましょう。

2　学習の到達目標

建築物を構成する部材を設計するための基礎となる事項を修得するために、部材に働く力や材料の強さなどを理解する。

構造物に作用する力および生ずる力について学び、力学的な考察力や判断力等の基礎的能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	建築構造設計に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	建築構造設計に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	建築構造設計に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	建築構造設計に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
評価方法	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	建築物に働く力	1．力の基本 2．構造物と荷重および外力 3．反力 4．安定・静定	○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a:実際の構造物を合理的に設計する上で、構造物および構造物に働く力について関心をもっている。 b:部材の構成や荷重および外力の形状を理解し、計算方法を適切に判断できる。 c:働く荷重および外力、支点に生ずる反力の解法を理解し、合理的に活用できる。 d:基礎的・基本的な知識を身につけ、構造物に働く力の種類や形状を理解している。	授業観察 ノートやプリントの記述 定期考査
後期	静定構造物の部材に生ずる力	1．構造物に生じる力 2．静定梁 3．静定ラーメン 4．静定トラス	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:静定構造物のどの部分にどのような力が生じるかについて関心をもっている。 b:単純梁・片持ち梁・単純梁系ラーメン・片持ち梁系ラーメン・トラスの応力を理解し、計算方法を適切に判断できる。 c:単純梁・片持ち梁・単純梁系ラーメン・片持ち梁系ラーメン・トラスの応力の解法を理解し、合理的に活用できる。 d:基礎的・基本的な知識を身につけ、構造物に働く力の種類や形状を理解している。	授業観察 ノートやプリントの記述 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。